

アジア経営学会第15回全国大会（2008年）統一論題趣旨

統一論題：「アジアにおけるグローバル化と企業経営の新段階」

折からの世界的な金余り現象と金融システム技術の発達で起きた米国のサブプライム・ローン問題を契機として、金融不安が日本・アジアはもちろん各国に及びつつある。あふれた資金が穀物や金はもちろん、原油、石炭や鉱石などの資源にも向かい、石油製品や金属、各種加工食品の価格高騰を日本・アジア各国でも招いている。米国企業経営の不安定さも手伝って、大幅な為替変動、ドル安が生じている。今まさに、従来とは異なった様相でグローバル化がいちだんと進みつつあるように思われる。こうした中で、アジア経済、そしてまた日本・アジア企業も新たなグローバル化の段階に入りつつある。

とりわけ注目されるのは、今日のグローバル化の具体的担い手である企業の相互関係の新たな展開である。ICT（Information and Communication Technology）をベースとした情報・通信分野の諸企業はもちろん多様な分野の諸企業が、アジアでのビジネスを通じてグローバル化を推し進めている。従来の日本を含めた先進国とアジア諸国（例えば、「世界の工場」といわれる中国など）との関連においてモノの流れ、資金の流れ、サービスの流れがこれまでとは異なった段階にあるように思われる。一方から他方への一方向的関係を見る従来の観点を前提にアジアの企業・経営を語ることはもはや適切とはいえないであろう。

先進各国・日本企業によるアジア各国への事業展開・浸透がみられると同時にアジア各国から先進各国・日本への、またアジア各国間のビジネスの相互浸透がみられる。グローバル化の新たな段階での、アジアにおける事業展開の再検討・再検証が今求められているといつてよいであろう。